

情報マネジメント

経営は、仮説検証の繰り返しと考えることができます。ビジョン、戦略、計画は「こうありたい」という目的と「目標」と「そのためにこのようなり方をする」という方法を仮説構築することです。そして、その仮説の方法を日々実行し、目標を達成できたかどうかを検証します。この仮説検証に適切な情報を用いなければなりません。

私たちは戦略や計画を目的、目標、目標達成のために用いる効果的な方法仮説として構築します。この時にどのような情報を用いるかが、仮説の質を決定します。ビジネスの対象となっている顧客・市場、競争企業の動向や変化、ビジネスに必要な技術変化の動きについて重要な動きをとらえていなくてはなりません。これは新聞、インターネット、調査報告書などで公開された情報源を活用すると考えられがちですが、それだけでは不十分です。日々行われる業務を

情報マネジメントの上手な活用が経営力を向上

通じて収集される断片的な情報が重要意味を持ちます。顧客、ビジネスパートナーとの対話やコミュニケーションを通じて得られる一見、些細な動きや兆候から本質的意味を見出すことが必要になります。そのためには、日々行われる活動で得られる情報をきちんと整理しておかなくてはなりません。

構築した仮説としての戦略や計画は日々の活動で実現しなくてはなりません。目的実現の状態を示した目標を適切な指標を用いて達成度を確認します。この指標は経営がどのような状態になっているかを確認する重要な情報になります。全社の大きな目標を実現するための部門の目標、その目標を達成するための重要な活動の目標が整合性をもって構築されていなければなりません。こうした日々行われる重要な活動の状態がわかるような情報体系をつくりあげる

ことを求めています。単に情報が体系的に収集されていればいいというわけではありません。この情報体系を構成している個々の情報の動きから、全社目標を達成するために経営上重要な課題を発見できなくてはなりません。経営層、部門のマネジメント層、第一線の現場それぞれが、他の部門との関係の中でどこに問題があり、それにどう対処できるかがわかるようになっていなければなりません。

問題を発見するには、単に情報を集めていればいいというものではありません。活動の状態を表した数値の動きとそれに関係する他の情報を結びつけた適切な分析が必要になります。例えば売上の変化は、どのような活動が影響しているのかを見出せるようになっていなくてはなりません。こうした問題発見と改善に結びつくように情報と分析方法も確立していかなくてはなりません。

戦略、計画、プロセスを変えるのとそれに伴って情報体系も変わらなくてはなりません。戦略を変えたり、部門の改善を行ったりする際には必ず、活動の状態を把握する情報も見直さなければなりません。このように戦略とその実行マネジメントによって経営情報をうまくマネジメントすることも経営力を高めるために重要なことなのです。